

くらしナビ 住まい Living

kurashi@mainichi.co.jp

長屋再生術

■ 2 ■

マリノバ奏者の通崎睦美さんが入手した京都市下京区の古い長屋で昨年3月、不要な部材の解体作業が始まった。ハンマーとハールだけの手作業で、薄汚れた新建材の壁や天井、床の下から、みるみるうちに建築当初の土壁や立派な梁、趣ある柱や屋根裏が姿を現した。通崎さんは「昭和30年代から、一気に大正時代に戻った感じがした。荒れた雰囲気だった家に、落ち着いた風情が取り戻された」と語る。

鳥根の古民家をフランスに移築した「日本古民家研究会」(松江市)の

立派な梁、壁再び表に



解体作業で新建材が一掃された1階にたたずむ通崎さん。建築当初の土壁や梁、屋根裏が姿を現した2階部分。最終的に正面や右側の壁、屋根裏はこのまま生かして仕上げられた。いずれも平野愛さん撮影

新建材を撤去 ■ 元の部材補修、耐震化も



通崎さんの設計に基づき作られた完成型。通崎さん提供。プロジェクトが話題となるなど、日本の古民家は世界的に注目されている。国内でも古民家再生を考えている人が多いだろう。地域・風土によって古民家の形態はさまざまだが、通崎さんの長屋再生ノウハウは全国的に通用する要素が満載だ。京町家を手広く扱い、改修を手がける不動産会社「ハチセ」(京都市下

京区)の西村孝平社長は古民家再生の魅力について「現代の住宅は新築時がベストで時間がたつほど価値が下がるが、町家や古民家の価値は手入れ次第で上がっていく。手作りの建具や柱は毎日ぬか袋で磨けば、30年後には新品にはない輝きを持つた逸品になる」と強調する。

古民家を再生する際、最も大切なのは、建物の傷みやゆがみを直すことだ。柱の根元の腐った部材を取り除き、浮いた箇所にも「根継ぎ」といわれる手法で新しい木材を継ぎ足して足回りを強化する。伝統的な日本の大工仕事だ。シロアリや腐食を防ぐため、天井も張るなど寒さ対策を考えた。通崎さんの長屋は基本的に「倉庫」目的だが、住むなら断熱の工夫も必要だ。堀川さんも「住居用ならもっと間仕切りを増やし、天井も張るなど寒さ対策を考えた」と話す。昔風の吹き抜け土間の台所でも、床暖房やスライド式の天井で寒さをしのぐ方法がある。

通崎さんの長屋は基本的に「倉庫」目的だが、住むなら断熱の工夫も必要だ。堀川さんも「住居用ならもっと間仕切りを増やし、天井も張るなど寒さ対策を考えた」と話す。昔風の吹き抜け土間の台所でも、床暖房やスライド式の天井で寒さをしのぐ方法がある。

堀川さんは「この家について、ハチセは、外から見えない押し入れ内部に製パンを取り付けるアイデアを提案している。一方、通崎さんの場合は、鉄骨の収納棚を地面と梁に直結し、階段と室内を分ける壁を、柱を壁に納めて面を支える。大壁」構造とすることで補強問題を解決した。鉄骨収納は床から独立しているため、収納した物の重さを建物に負担させないという利点もある。

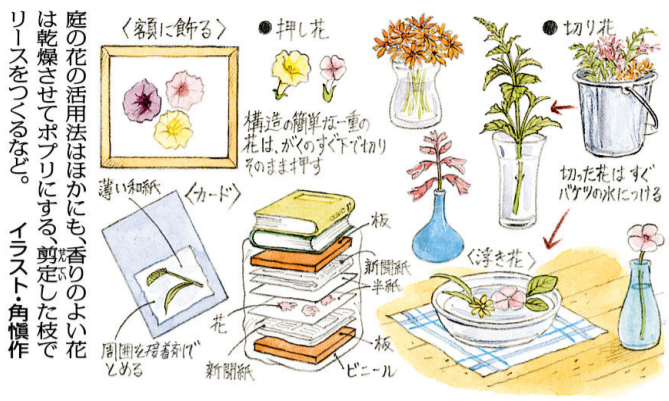
ともある。もう一つ大切なのは構造補強。伝統工法は元々揺れを吸収する仕組みだが、壁の少ない方向では

水の中で葉を切り直し、下葉をとります。置き場所はエアコンの風が直接当たらないことです。そして毎日新鮮な水に替え、切り口も新しくします。



「カットは画家の谷本天志さん」

話題や質問をお寄せください。〒530-8251毎日新聞くらしナビ「住まい」係。メールは表題を「住まい」とし、ページ上段のアドレスへ。



庭やベランダで育てた花や緑を収穫して、室内で活用してみませんか。アフターガーデンングともいいますが、その楽しみ方はさまざまです。せっかく育てた花や緑ですから、できるだけ長く楽しみたいと思います。まず、切り花で室内を飾ります。お手持ちの花びんに何本かまとめてふんわりと生けましょう。あるいは1輪ずつ、小ぶりの空きびんやグラスなどを組み合わせての「妙」を楽しみます。

四季のガーデニング

山田幸子

庭の花を収穫して楽しむ

ハーブ類を加えると香りも楽しめますし、清涼感のあるミントは体温を下げる効果もあるようです。花壇などの茎の短い花は、浮き花アレンジがおすすです。サラダボウルや深皿に水を入れ、花のすぐ下の位置で切った花を浮かせます。涼しげな葉も添え

さまざまな手加えて

で切り、重ならないように並べます。その上に半紙、新聞紙を順に重ね、板をのせます。全体をビニール袋で包んで外からの湿気を防ぎます。レンジや厚い本などで約10分の重しをのせ、水や乾燥させるときれいに仕上がります。できあがりまで1週間が目安です。台紙に貼って額(写真立て)に入れる、しおりやカードをつくるなど、作品にしましょう。厚紙にインクシートを使って構図を決めます。花の裏側に、つまようじなどで木工用接着剤を薄くつけて貼ります。カードやしおりの場合は透けるような薄い和紙や布を上の方にのせ、周囲を接着剤で固定します。こうすると花を傷めません。(園芸研究家)



「のぼり旗を手に練り歩く子供たち」長野県松本市で7月3日、日報連会員の清澤優一さん一同市(長野県版)



「台風6号の接近で海沿いの護岸に打ち寄せる大波」広島県福山市で7月19日、村上雅基さん一同市(広島県版)



「台風の接近で海沿いの護岸に打ち寄せる大波」広島県福山市で7月19日、村上雅基さん一同市(広島県版)



あなたのニエース写真

7月度から

献身的な子育てと巣立ち

自然は人に猛威を見せつけ、一方、気持をなごませたり、感

自然は人に猛威を見せつけ、一方、気持をなごませたり、感

あなたも目撃者

「あなたのニュース写真」は、紙面に掲載された投稿写真の中から、貴重な記録や印象に残ったものを振り返るページです。「これは」と思う写真を撮影されましたら、速やかに毎日新聞社の本支社、支局にご連絡ください。掲載された写真の中から年間賞を贈ります(若干名)。